

長野県林業総合センター 塩尻市片丘 5739
 Nagano-prefectural Forestry Research Center
 TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

新たな木材害虫 アメリカヒゲジロキバチについて

キーワード: キバチ、外来種、木材害虫

1 アメリカヒゲジロキバチとは

キバチ類は幼虫が木材を食べて成長するハチです。メスが丸太に産卵する際に白色腐朽菌を注入し、木材に変色被害をもたらす材価を著しく低下させます。

アメリカヒゲジロキバチ（図-1）は北米原産の木材害虫であり、大きさは約3cmです。日本の森林からは2019年上田市のアカマツ林で初めて発見され、今年2023年には伊那市産のカラマツ丸太上で採集されており（後述）、長野県の広い範囲での定着が疑われます。日本と同じく本種の侵入を受けているヨーロッパでは、欧州食品安全機関（EFSA）が「潜在的検疫害虫」に位置付け、注意喚起を行っています。

外来種「アメリカヒゲジロキバチ」
Urocerus albicornis



在来種「ヒゲジロキバチ」
Urocerus antennatus

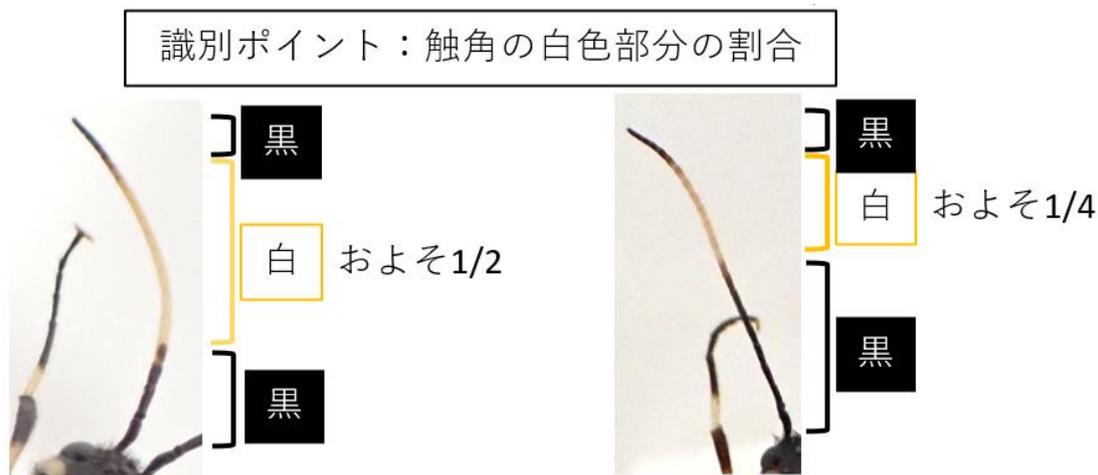


図-1 アメリカヒゲジロキバチとヒゲジロキバチ

2 懸念される林業被害について

本種は北米原産のキバチですので、日本のカラマツやアカマツにどのような被害を与えるかは、現時点で何もわかっていません。ただしキバチ類は、移入先で深刻な経済被害をもたらす種が多く知られています。例えば、ユーラシア大陸原産のノクチリオキバチは、移入先のオセアニアでマツ林の33%を枯死させました。本種についても警戒を怠るべきではないと考えます。

よく似ている在来種、ヒゲジロキバチとの見分け方は図-2のとおりです。



外来種「アメリカヒゲジロキバチ」

在来種「ヒゲジロキバチ」

図-2 見分け方

土場の丸太や切り捨て間伐木に見慣れない黒いハチがとまっていないでしょうか。皆様からの情報提供をお待ちしております。

3 採集情報

1 ♀、長野県塩尻市「長野県林業総合センター」構内保管のカラマツ丸太上、13.VI.2023、小池直樹採集・藏満司夢保管。なお、カラマツ丸太は伊那市の信州大学農学部附属AFC手良沢山ステーション演習林で2023年1月に伐採、搬出されたものである。

担当者 木材部 小池直樹